

北陸大学図書館報

Bulletin NO.43

⇒ をクリックすると本文がご覧になれます。

⇒ 学生と読書

竹井 巖
(図書館長・薬学部教授)

⇒ 平成29年度図書館委員紹介 ～～ 委員から一言 ～～

⇒ 寄贈図書

北陸大学図書館報

NO.43



◆◆ 学生と読書 ◆◆

図書館長・薬学部教授 **竹井 巖**

アフリカに起原を持つ現生人類は、数万年前から全世界に拡がり、史上最強の知的生物種として地球上に繁栄している。他の生物種との違いは、文字の発明とその使用による文明の発展にあるとされる。「人間以外に読書する生き物はいない」と言っていると思う。なのに、読書しない学生が増えている。

妙な書き出しになりましたが、4月から北陸大学図書館長に就いた竹井巖です。学生の読書離れに危機感を持っています。

新聞で「1日の読書時間が『0分』の大学生は約5割に上る(朝日2017/2/24)」と報じられた。全国大学生生活協同組合連合会の第52回学生生活実態調査による結果で、1日の平均読書時間が0分の大学生は49.1%に達し、全体の平均読書時間も24.4分と短縮したという。「人間ではない学生が増えている」と言うのは言い過ぎだが、驚きの結果だ。

私の学生時代には、専門分野も含めて世の中の多くの事を学ぶのに、読書が重要な位置を占めていた。「学生と読書」の時代が確かにあった。その後、学生の読書離れが叫ばれて久しい。「学生と読書」という言葉はすでに時代遅れなのだろうか。

現代は、パソコン・スマホなどの情報端末の利用が学生生活で重要な位置を占め、知的活動の新たな分野の開拓と進展の時代である。図書館も、インターネットを介した電子情報サービスなどに積極的に取り組んでいる。一方で、端末による情報の消費は、学生の読書機会を奪っているように見える。

学生にとって、狭い無機質な液晶画面上の文字や画像情報から得られる知は、どんな意味を持つのだろうか。私は、その利便性に一抹の不安を感じる。アクセスできる断片情報が全世界のすべてであると、学生が勘違いすることのないよう祈っている。

学生ならば、人類の知が集積する図書館という空間に身を置いて、気の向くままに多様な書籍に触れてほしい。本の重さを受け止め、ページをめくる感触を体験してほしい。図書館を探索すると、人類の知り得た様々な世界を発見し追体験することができる。この五感を用いた知的な探索は、図書館ならではのものだ。情報端末で同様の経験はできない。在学中にその素敵な探索を体験してほしい。

北陸大学図書館では、学生や教職員の学修・研究活動を可能な限り支援している。また、有り難いことに、一般の方々や少なからぬ中高生の諸君の利用もいただいている。学生に加えて「読書を通しての知的活動」を楽しみたい方の来館をお待ちしています。

平成 29 年度図書館委員紹介 ～～ 委員から一言 ～～

◆◆ 学問の本質 ◆◆

ひとは誰でも学生時代にある人物や書物にのめり込んだ経験があるのではなからうか。

かつてフィヒテは「どういう哲学を選ぶかはどういう人間であるかによる」と述べたが、あえて言えば私が深く影響を受けた哲学者のひとりにルネ・デカルトがいる。

真理を探究したいという強い衝動に駆られて、かれの著作集をフランス語ないしラテン語で読み耽ったものだ。特に真理探求の方法論としての『方法序説』（1637年）を繰り返し検討した。この題名を知っている者は多いであろうが、実はそれに続けて「この方法の試論である屈折光学、気象学および幾何学」という学問分野が書かれていることを知っている者は意外と少ないのではなからうか。デカルトは当時の自然科学の第一線の研究に専念していたからこそ、それらの諸問題を解決するための哲学的方法論を発見したのである。

方法論にとらわれることなく、まず学問そのものに真剣に取り組むことが不可欠である。自然科学にかぎらず、人文社会科学を研究している学生諸君もぜひこの著作を熟読玩味してほしい。

（松本 和彦 経済経営学部教授）

◆◆ 委員就任記念・読書宣言！ ◆◆

竹井現図書館長から委員就任への打診を受けた時、真っ先に頭をよぎったのが「最近、“読書”していないに心苦しいな」ということでした。仕事に必要な本は読みますが、「趣味」としての読書時間の確保はなかなか難しいのが辛いところです。これまでを振り返ると、江戸川乱歩の少年探偵シリーズ（小6）、赤毛のアンシリーズ（中3）、静かなドンや私本太平記（電車通学していた高校時代）などなど、結構長めのものを一時期に一気に読むことが多かったです。合間には太宰治や田辺聖子、黒岩重吾の古代史ものなど様々。

家には「とりあえず気になるので買っておこう」とamazonでポチっとした本が何冊も埃をかぶっているの、委員就任を機にページを開きたいと思います。

（倉島 由紀子 薬学部講師）

◆◆ スマート本 ◆◆

タイトルを見て、「オヤジのダジャレか・・・」と読むのをやめたあなた。正解。「ちょっとつきあってやるか」と読もうとしているあなた。とても付度（そんたく）できる人。ちょっとだけつきあって下さい。

皆さんが使っているスマートフォンって、世間ではヒトの生き方を変えた「ザ・ITツール」と思われているんじゃないかな。IT と言えば、億万長者のビル・ゲイツや故スティーブ・ジョブズだね（異論は認める）。ゲイツはものすごい読書家で、ジョブズは17歳のとき読んだ本にもものすごい影響をうけたそうです。彼らのスマートな人生は本が創ったんだ。

すごい人生を送るきっかけとなる「スマート本」に会えると良いですね。図書館で。

（亀井 敬 薬学部講師）

◆◆ 「爲すことあれと 吾に言う」 井上靖 ◆◆

人は何かを爲(な)すために生まれてきたので、意義も特徴もあると考えている。教授や先輩や上司達に指示されて、やっている学業や業務をするために、生まれてきたのだろうか。教授や先輩や上司達がいなくても、今やっている学業や業務の分野をするのか。図書館で、一人で関心のある学業や業務に没頭してみると、己が何を爲すために生まれてきたのかが分かってくる。公務員、教師、プロ選手やスポーツ指導者、CA、実業家、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、大学職員、大学教授等々の分野で、60歳位になれば自覚できると思う。それまでを、図書館で学ぶ様な、謙虚で自然体的な自己研鑽の訓練が肝要である。以下に示す、本学讃歌の「爲すことあれと 吾に言う」の詞を好んでいる。

北陸大学 讃歌		詞 井上靖	
一、	北辰高く 冴ゆる空	その神秘なる輝きは	
	まことを知れと 吾に言う	時代の榮華 遠く見て	
	まことを知れと 吾に言う	ああ 吾等 若き子	
	天翔ける日に備えて	いざや掲げん 青春の炬火	
	眞理求める青春の炬火	北の 北の 緑の 緑の學舎に	
二、	潮とどろく 日本海	その神秘なる潮騒は	
	爲すことあれと 吾に言う	世紀の理想の旗手として	
	爲すことあれと 吾に言う	ああ 吾等 若き子	
	天翔ける日は近ければ	いざや掲げん 青春の炬火	
	自己錬成の青春の炬火	北の 北の 緑の 緑の學舎に	

(南谷 直利 経済経営学部教授)



※北陸大学讃歌は、薬学キャンパスの武道場に掲げられています。

◆◆ 読書の楽しみ ◆◆

私が読書を始めてからずっと、本は私の人生そのものです。読書をするのはリラックスあるいは研究のため。よい本は想像力を刺激します。そして新しいアイディアと新しい見識を得ることが出来ます。本を読むことは、気分を引き立て、感激し、考えることに役立ちます。

私は特に伝記を読むのが好きです。それは人々を描写するだけでなく、外国の種々の考え方、時代、および文化に洞察を与えてくれるからです。新しい書物を借りるために、私はたびたび図書館へ行きます。私の好きな本をお勧めします。作者はノーベル物理学賞受賞者であるリチャード・ファインマン氏で、本の題名は『ものをつきとめる楽しみ』です。

皆さんも図書館に行き、自分が好きだと思える本を探しに行きませんか？

(ルート・ライヒェルト 国際コミュニケーション学部教授)

◆◆ 知の宝庫—図書館— ◆◆

どんな人でも、時間的・経済的制約により、自分の直接の経験だけに基づく知識は極めて限られたものです。しかし、私たちには、この限界を補うことのできるものがあります。それは、古今東西の人々の知識の蓄積です。これはいわば人類の知の資産であり、その多くは本の中に蓄えられています。本を通して、私たちは時間的にも空間的にも、自分一人では決して得られない膨大な知識に触れることができます。そして、その場となるのが図書館です。図書館を活用することによってできるだけ多くの本に触れてください。そうすることによって、人類の知の資産を受け継ぎ、それをさらに発展させて、未来の世代に貢献することができます。

(轟 里香 国際コミュニケーション学部准教授)

◆◆ アイディアはウロウロして生み出される?! ◆◆

皆さんは、図書館や書店に入るとどれくらいの時間その場に滞在していますか？私は、読みたい本を求めに出かけるのではなくて、何か楽しい、面白い本はないかなとブラブラして過ごします。本の出会いを求めているので滞在時間は長く、私と一緒に図書館や書店に行ってくれる友人は残念ながらいません。

初めに行くコーナーは決まっています、「医学」や「看護」の専門書を物色。次に「自己啓発」、「心理学」などの本を見て自分を奮い立たせ、さらに「女性」「ファッション」など女子力を上げる本や雑誌を物色し（これで綺麗になったと錯覚を起こす）、妻や母親らしくいたために「料理」や「レシピ」関連を確認します。しばらくすると英語を喋りたいなと思って「英語」のコーナーへ行き、これで英語が喋られるのではないかと錯覚し、次に最近流行りの「一般書籍」を確認して一度休憩をします。そこで目に入る本が気になると、またウロウロとする始末。次第に自分の専門としない本を手に取り、知らない世界に目を奪われていることが多いです。研究ネタはここから生まれているのかな？

(高橋 純子 医療保健学部准教授)



◆◆ 本嫌いだったのに図書館委員になるとは ◆◆

小中学生の頃、本はもちろん漫画を読むことも嫌いでした。受験勉強で図書館を利用している同級生がいましたが、私の場合自分の机ではないと勉強が進みませんでした。ですから当然、学校の図書室には行くわけがありません。図書館を利用し始めたのは、大学生になってからです。それも本を読むというより、レポートに必要な文献を探してコピーを取りに行くのが目的でした。

インターネットが普及しどこでもいろいろな情報が手に入る時代です。大学生の皆さんはどのくらいの方が本を読むという目的で図書館を利用し、またその必要性を感じていますか。

書籍はインターネットに勝っているのでしょうか？今後の大学図書館のあるべき姿とは？思索は深まるばかりです。

(滝野 豊 医療保健学部助教)



寄 贈 図 書

本学の教職員から、下記のとおり図書の寄贈がありました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

書名		寄贈者
『火群のごとく』他	計12冊	泉 洋成 (理事)
『金沢大学薬学創立150周年記念誌』他	計35冊	三浦 雅一 (理事、薬学部教授)
『行政の解体と再生』他	計2冊	桧森 隆一 (副学長、国際コミュニケーション学部長)
『最新尿検査 第2版』他	計8冊	油野 友二 (医療保健学部教授)
『薬学系の基礎がため化学計算』	計4冊	木藤 聡一 (薬学部講師)

北陸大学図書館報 NO. 43 平成29年10月31日発行

編集・発行：北陸大学図書館 〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1 TEL. 076-229-3021 FAX 076-229-4850

Eメール：tlib@hokuriku-u.ac.jp 北陸大学図書館ホームページ <http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/campus/library.html>